

### 別紙 3

#### 厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業） 分担研究報告書

オーダーメイドな肝炎ウイルス感染防止・重症化予防戦略の確立に資する研究

研究分担者 河野 豊 徳島大学大学院 医歯薬学研究部 実践地域診療・医科学 特任准教授

研究要旨 前年度までのアンケート調査をもとに歯科医療従事者向けの肝炎についての動画コンテンツを作成した。視聴した歯科医療従事者に内容の理解度等についてアンケート調査を行った。動画の内容の評価は概ね良好であった。一方、消毒薬の使用選択がアルコールと次亜塩素酸ナトリウムとで分かれていたことや、内科との連携が不十分であったことについては、今後精査が必要と考えられた。

#### 共同研究者

舞田健夫（北海道医療大学歯学部口腔機能修復・再建学系 高度先進補綴学分野）

湯本浩通（徳島大学大学院 医歯薬学研究部 歯周歯内治療学分野）

#### A. 研究目的

昨年度までの研究で、歯科医療従事者向けのウイルス性肝炎に関する動画コンテンツの作成には「肝炎についての正しい知識」「患者への差別・誤解を生まないような配慮」および「肝炎医療コーディネーターの啓蒙」などの内容が必要であることが判明した。本年度はこれらの内容を盛り込んだ動画コンテンツを作成して、歯科医療従事者に視聴してもらい、視聴後にアンケート調査を行った。

#### B. 研究方法

「歯科医療従事者に知ってほしい B 型肝炎、C 型肝炎のこと」というタイトルで動画を作成した。ナレーション及びテロップ付きのスライド 80 枚の構成で動画時間は 20 分 27 秒の長さにした。動画は youtube(限定公開)にアップロードして、Forms で作成したアンケートに動画リンクを埋めた。アンケートの質問数は最大 22 問とした。対象は北海道医療大学病院歯科医および北海道医療大学歯学部同窓生の歯科医、徳島大学病院歯科医師および徳島歯科医師会所属の歯科医であった。アンケート調査を集積して各選択肢に対する単純集計、

クロス集計等を行った。

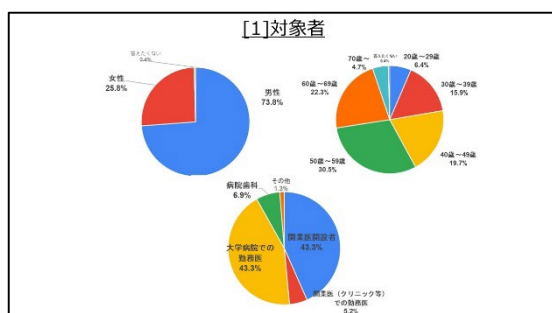
（倫理面への配慮）

本研究は介入及び侵襲を伴わないアンケート調査であり、得られたアンケート調査結果は本研究の成果発表以外には使用しないほか、個人が特定されるような情報が研究担当者以外に知られることないように厳重に管理した。

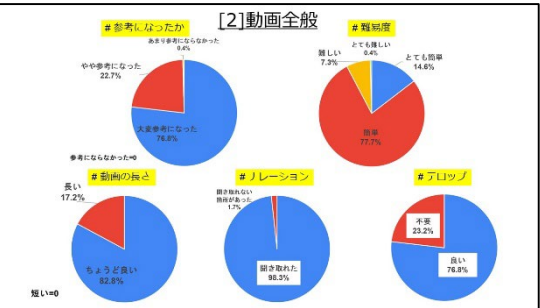
#### C. 研究結果

2023 年 6 月 27 日から 12 月 31 日までの間に動画を視聴しアンケートに答えた 236 名のうち調査に同意が得られた 233 名を解析対象とした。

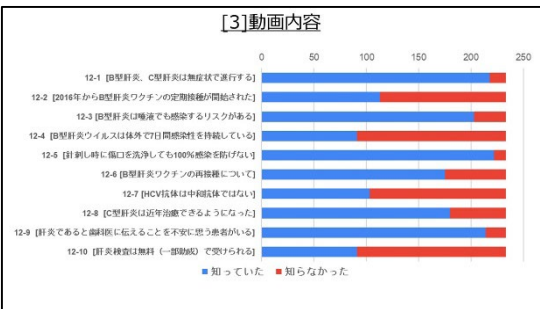
[1]対象者：男女比は約 3:1 で、年齢層は 20 歳代から 60 歳代まで幅広かった。開業医と大学などの病院での勤務医はほぼ同程度であった。



[2]動画全般：動画の全体的な内容については「参考になった」の割合が多く、難易度についても「簡単」の割合が多かった。「動画の長さ」「ナレーション」「テロップ」については 概ね問題ない結果であった。



[3]動画内容：「2016 年から B 型肝炎ワクチンの定期接種が開始された」「B 型肝炎ウイルスは体外で 7 日間感染性を持続している」「HCV 抗体は中和抗体ではない」「肝炎検査は無料（一部助成）で受けられる」について視聴前から知っていたのはほぼ半分程度だった。

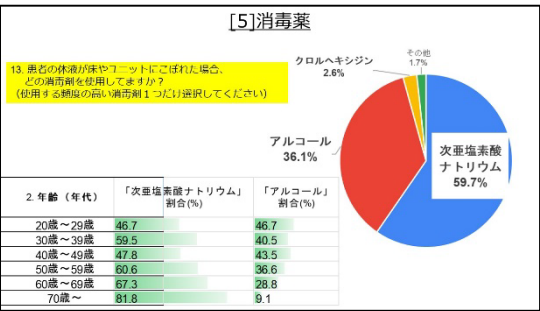


[4]動画内容：年代別での傾向では、「HCV 抗体は中和抗体ではない」を知っていた割合はどの年代でも同程度だった。一方「C 型肝炎は近年治療できるようになった」ことについては、若い年代では知っている割合が少なかった。

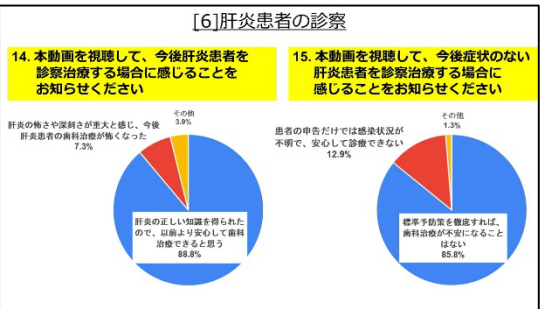
**[4]動画内容**

| 2. 年齢（年代） | 12-7 [HCV抗体は中和抗体ではない] | 12-8 [C型肝炎は近年治療できるようになった] |
|-----------|-----------------------|---------------------------|
|           | 「知っていた」割合(%)          | 「知っていた」割合(%)              |
| 20歳～29歳   | 46.7                  | 46.7                      |
| 30歳～39歳   | 35.1                  | 62.2                      |
| 40歳～49歳   | 34.8                  | 78.3                      |
| 50歳～59歳   | 53.5                  | 81.7                      |
| 60歳～69歳   | 42.3                  | 84.6                      |
| 70歳～      | 54.5                  | 100.0                     |

[5]消毒薬：体液が床やユニットにこぼれた場合に使用する消毒薬は、「次亜塩素酸ナトリウム」が 59.7%、「アルコール」が 36.1% 「クロルヘキシジン」が 2.6%であった。年代別での傾向を検討したところ、若い年代では次亜塩素酸ナトリウムの使用割合が少なく、アルコールの使用割合が多い傾向だった。



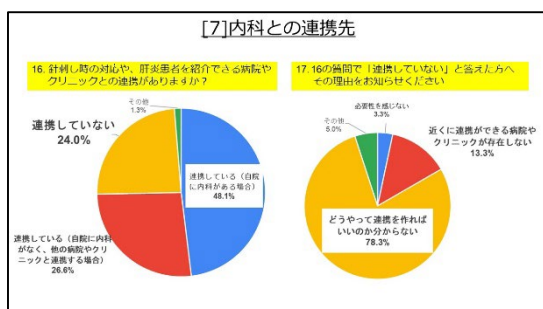
[6]肝炎患者の診察：本動画を視聴後に今後肝炎患者を診察する場合に、「肝炎に関する正しい知識を得た結果安心して治療ができる」と答えた割合は 88.8%であった。また今後症状のない肝炎患者を診察する場合の対応に、「標準予防策の徹底により不安を払拭できる」と答えた割合は 85.8%であった。



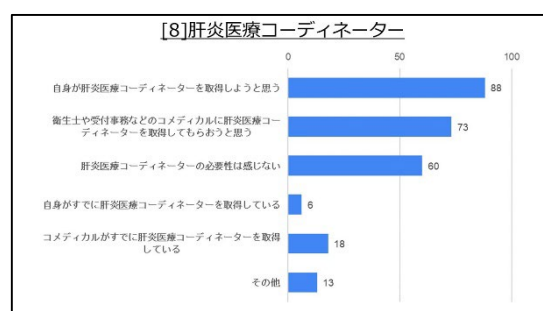
年代別での傾向では、20～29 歳の 26.7%が肝炎患者の診療に対して不安があると回答していた。また 70 歳以上においては、肝炎の感染状況が患者の申告 فقطだと安心した治療が出来ないと回答した割合が 36.4%だった。

| [6]肝炎患者の診察 |                                        |
|------------|----------------------------------------|
| 2. 年齢（年代）  | 肝炎の怖さや深刻さが重大と感じ、今後肝炎患者の歯科治療が怖くなった割合(%) |
| 20歳～29歳    | 26.7                                   |
| 30歳～39歳    | 5.4                                    |
| 40歳～49歳    | 10.9                                   |
| 50歳～59歳    | 1.4                                    |
| 60歳～69歳    | 7.7                                    |
| 70歳～       | 9.1                                    |
| 2. 年齢（年代）  | 患者の申告だけでは感染状況が不明で、安心して診療できない割合(%)      |
| 20歳～29歳    | 26.7                                   |
| 30歳～39歳    | 21.6                                   |
| 40歳～49歳    | 13.0                                   |
| 50歳～59歳    | 5.6                                    |
| 60歳～69歳    | 7.7                                    |
| 70歳～       | 36.4                                   |

[7]内科との連携：自施設の歯科医療従事者が針刺しなどの刺傷を来した場合や、肝炎患者を紹介する場合に、内科と「連携していない」と答えた割合は全体の 24%で、内科が自院にないクリニックだと約半数が内科と「連携していない」と回答していた。内科と連携していない理由として、「どうやって連携を作ればいいのか分からない」が 78.3%と大半で、「近くに連携できる病院やクリニックが存在しない」が 13.3%だった。



[8]肝炎医療コーディネーター：歯科医自身が資格取得を検討してたのは 37.8%(88 名)で、コメディカルの取得を検討してたのは 31.3%(73 名)だった。すでに取得した歯科医は 2.6%(6 名)だった。25.8%(60 名)は「肝炎医療コーディネーターの必要性を感じない」と回答していた。



## D. 考察

本年度は、歯科医療従事者向けのウイルス性肝炎に関する動画コンテンツを作成して、動画内容の感想や有用性についてアンケート調査を行った。

回答者の内訳は大学病院などの勤務医とクリニック開業の診療医の割合がほぼ同程度で、若年から高齢まで比較的均一な年代層の対象者であった。動画全般（動画時間、ナレーション、テロップ）については概ね好評であった。動画内容については、「参考になった」「簡単」と大部分が回答しており、本動画コンテンツの意義がある程度確認された。

「B 型肝炎ワクチンの定期接種」「B 型肝炎ウイルスの体外の感染可能持続期間」

「HCV 抗体が中和抗体でない」「肝炎検査の助成」などの内容については、半数の歯科医が動画視聴前知らなかったという結果であった。肝炎ウイルスの基礎的知識のみならず近年の肝炎に関する行政事業の動向についても併せて周知する必要性が確認された。

C 型肝炎が近年治療できることを 22.7%の歯科医が知らなかったが、年配より若い歯科医の方がその割合が多かった。2014 年に DAA レジメの登場以降ウイルス排除率が劇的に向上したが、年配の歯科医は学生時代にはこのことを学習しておらず、何らかの方法で治療の変遷を知った可能性がある。本研究結果は当初の想定とは異なるものであり、今度の課題と考えられた。

体液の付着した環境に使用する消毒薬については、「次亜塩素酸ナトリウム」が 59.7%と最も多く、「アルコール」が 36.1%「クロルヘキシジン」であった。年代別に回答をみると、若い歯科医では「次亜塩素酸ナトリウム」より「アルコール」を使用する割合が多かった。この傾向の理由は不詳だが、ユニットなどの金属部分に対する次亜塩素酸ナトリウムによる腐食を考慮した可能性がある。一方でアルコールは揮発乾燥するため、消毒の仕方（アルコールの使用量や乾燥しやすい環境）によっては B 型肝炎ウイルスを十分に不活化できない可能性があり、その消毒法についての丁寧な周知が必要と

感じられた。

本動画視聴によって肝炎に対する正しい知識や標準予防策を徹底することで、安心した肝炎患者の歯科治療が可能との回答が多かった。その一方で、肝炎患者の診療に不安を感じると若い歯科医が回答した割合が多かった。大学生時代の肝炎に関する学習度や、歯科医療現場での経験年数が影響していると考えられ、肝炎に関する持続的な学習の場の提供が必要と考えられた。

自施設での歯科医療器具による刺傷や肝炎患者の相談の際に、約半分の歯科クリニックで内科との連携が十分でないことが判明した。針刺しなどの受傷後 48 時間以内に HB グロブリン製剤を投与する場合、投与前に受傷者の HBs 抗体価や暴露源患者の HBs 抗原を知る必要がある。これら一連の検査をして検査結果が判明するまでの時間を踏まえると、医科との連携を事前に整備しておくことが肝要である。本動画内で、肝疾患拠点病院へのアクセス方法を明示(HP アドレスやQRコード)しており、コメディカルを含めた歯科医療従事者にとって安心できるような内科との連携形成が期待される。

肝炎医療コーディネーターの取得については、歯科医自身およびコメディカルの取得検討はそれぞれ 3 割程度だった。一方で 25.8%の歯科医が肝炎医療コーディネーターの必要性を感じないと答えていた。その理由として、すでに肝炎の知識を習得しているため不要、肝炎の知識の習得の必要性を感じない、などが考えられる。本動画が肝炎に関する知識や情報へのアクセス入手の簡便さとして、肝炎医療コーディネーターの補助的または端緒的な役割を担うような位置づけになれば幸いである。

次年度以降は、本アンケート調査は 2024 年 3 月を最終〆切としたため、調査結果をさらに精査して、本動画の完成に向けてとりかかる。また、歯科衛生士や歯科助手を対象とした動画コンテンツの作成に着手する予定である。

## E. 結論

歯科医療従事者向けの肝炎に関する動画を作成して、視聴後アンケート調査を行った。内容としては概ね良好で、今後本動画を元に完成版の作成を進める予定である。

## F. 健康危険情報

なし

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

なし

### 2. 学会発表

なし

## H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし